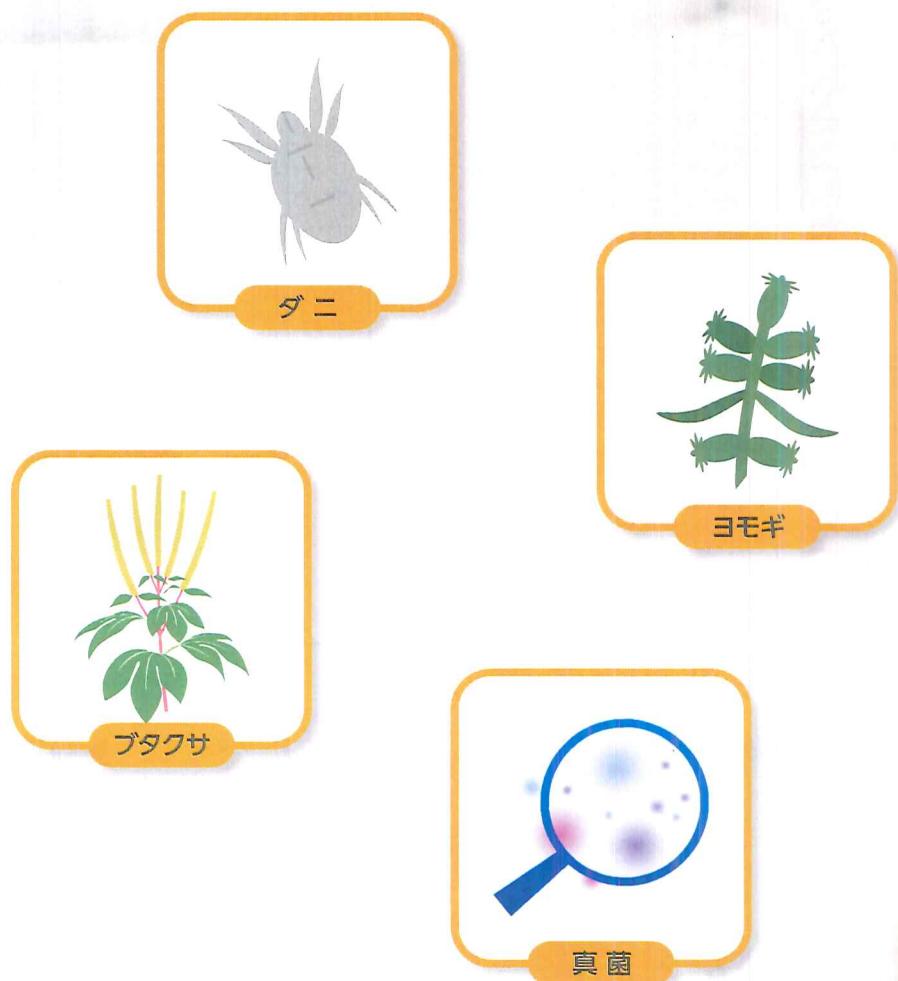


秋になると鼻・咳の症状が出たり悪くなることはありませんか？



ダニ、カビ(真菌類)やガ・ゴキブリなどのアレルゲンが原因のアレルギーだと症状が年間を通して続いてしまいます。これらのアレルゲンは特に秋に量が多くなるので秋に症状が悪化します。ブタクサ・ヨモギなどの秋の花粉もこの時期の悪化の原因になります。

ダニアレルゲン量は秋に最も多くなります。ダニ生息数は梅雨時期から増え、夏にピークを示し、アレルゲンとなるダニのフンや死骸は秋に増加します。

喘息患者さんがカビアレルギーになると、重症化しやすくなると言われていますので注意が必要です。

監修：国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 診断・治療薬開発研究室 室長 福富 友馬 先生

当院では、アレルギーの原因を調べるための血液検査を受けることができます。
お気軽にスタッフにご相談ください。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社

© 2019 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved. All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific and its subsidiaries unless otherwise specified.
Printed in Japan. 1908-ot-061

ThermoFisher
SCIENTIFIC

3 真菌

- 秋の台風などの悪天候、梅雨で悪化する
- 喘息重症化に関与する
- 大発作のリスクが高い(要注意患者群)

→ 特に増悪が予想されるシーズンに確実な投薬。確実な環境整備。

4 ペット

- 飼育している、していないにかかわらず、ペット接触時に症状誘発していないかを問診する
- 以前にペットを飼っていた人が、久しぶりにペットカフェや、知人宅などでペットに曝露された際に、重篤な発作をおこすリスクがある
- ペットアレルギーかつ喫煙者は特に喘息が悪くなる
- IgE抗体値がクラス1-2でも実際に症状を起こすことがあるので注意が必要となる

→ まずはペット手放すことを勧める。無理な場合は、禁煙や投薬アドヒアラランスの向上を指導する。発作リスクに関して常に留意する。

参考 1) Miyazawa et al. Ann Allergy Asthma Immunol. 1996 Feb;76(2):170-4.

2) Minami et al. Allergol Int 2015; 64:90-5

中面は患者様向けの情報です。待合室などに掲示ください。

Information アレルギー関連セット・項目のご案内

HPP 鼻炎13 コード 11559	
ヤケヒヨウヒダニ	イヌ皮膚
スギ	ネコ皮膚
ヒノキ	ガ
カモガヤ	ゴキブリ
ブタクサ	ユスリカ(成虫)
ヨモギ	カビ(マルチ)
ハンノキ(属)	

マルチアレルゲンの構成 カビ | ペニシリウム、クラドスボリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスボリウム
雑草 | ブタクサ、ヨモギ、フランシギク、タンポポ(属)、アキノキリンソウ

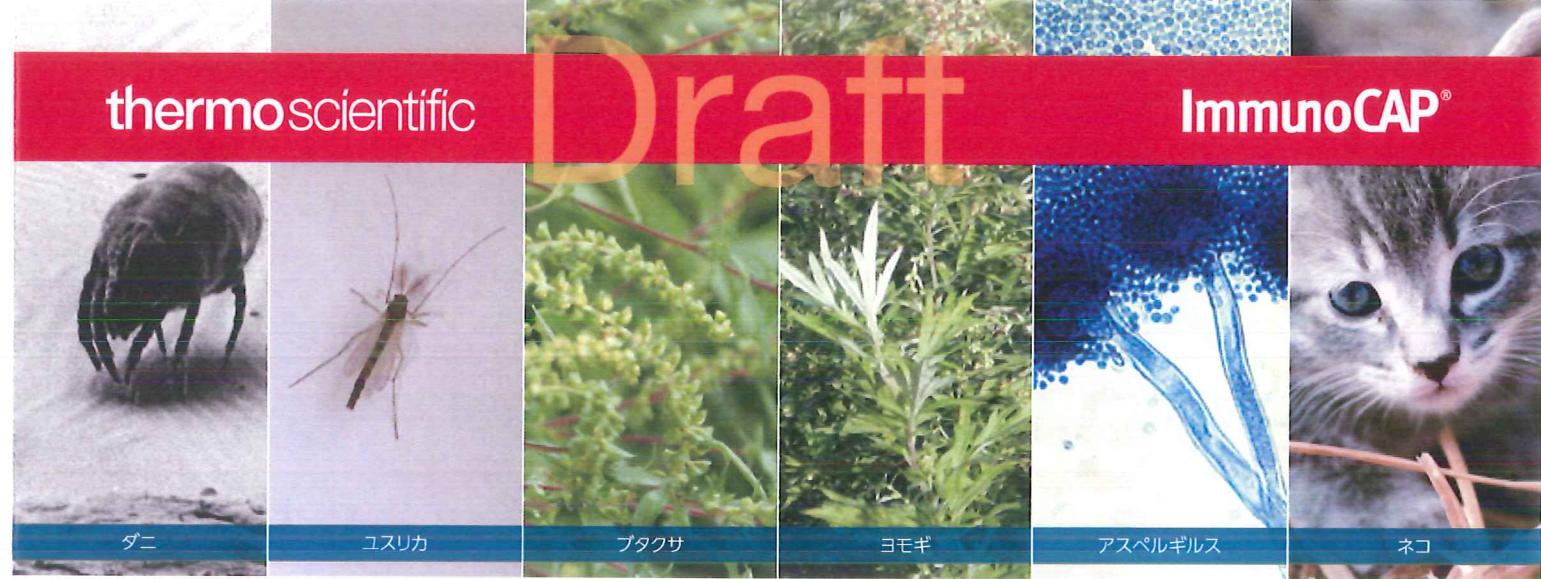
FALCO bio systems

Find out more at thermoscientific.com/phadia/ja

© 2019 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved.
All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific and its subsidiaries unless otherwise specified.
Printed in Japan. 1908-ot-061-15

サーモフィッシュヤーダイアグノスティックス株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦4-2-8 住友不動産三田ツインビル東館
0120-489-211 受付時間 9:00~17:30(土日祝日、年末年始を除く)
info-jp.idd@thermofisher.com

ThermoFisher
SCIENTIFIC



秋に気道アレルギー症状(喘息や鼻炎)が増悪する患者さんには感作アレルゲンを把握したうえで治療計画を立てることがとても重要です!

- 喘息・鼻炎において吸入アレルゲンへの曝露と感作は重症化の危険因子です。薬物治療をしているにもかかわらず喘息・鼻炎の症状が残っている患者さんには、季節性の変化や増悪の頻度に変化がないかを問診でチェックしましょう。その際、感作アレルゲンの同定を疎かにしてはいけません。原因アレルゲンの同定にはThermo Scientific™ イムノキャップ™ 特異的IgE検査が有用です。
- 秋はブタクサやヨモギなどの季節の花粉に加え、ダニや昆虫などの秋に特にアレルゲン量が多くなるアレルゲンが症状の増悪を引き起こしている可能性があります。

問診時に注意すべきアレルゲンの特徴と特異的IgE検査陽性時の対応

1 ダニ／昆虫(ガ・ゴキブリ・ユスリカなど)

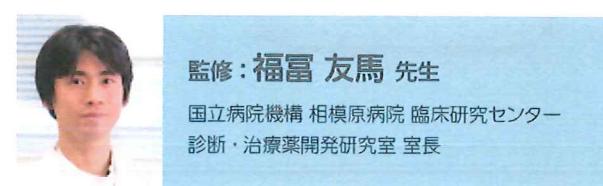
- 室内塵中ダニ、昆虫アレルゲン量は秋に特に増加し、症状を増悪させる¹⁾
- ダニ-IgE抗体値クラス3を超えると誘発率が上がる²⁾

→ 寝具対策を中心とした、複数種類の回避指導を複合して適切に行えば有効。ダニ特異的IgEが陽性の場合、アレルゲン免疫療法が有効である可能性がある。

2 花粉

- 秋の季節に飛散する花粉ブタクサ・ヨモギなどで鼻炎症状と同時に喘鳴や咳などの下気道症状も増悪することがある
- カバノキ科やイネ科などの花粉も下気道症状を来しやすい
- PFAS(花粉-食物アレルギー症候群)などを考えて、関連食物も注意する

→ 吸入ステロイド薬が効きにくい。抗ヒスタミン薬も考慮する。



監修:福富 友馬 先生

国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター
診断・治療薬開発研究室 室長

ThermoFisher
SCIENTIFIC